



# 犬王女

◆ イヌになったオウジョさま ◆

I・II・III





# 犬王女

イヌになったオウシュウゴ

I・II・III



# 犬王女

イヌになつたオウシュウゴ

I・II・III



# 犬王女

イヌになったオウジョさま

I・II・III



sin  
maniax.

DRAGON QUEST 2 CÔTÉRIE CÔMIC "MA+ING PRINCESS".  
CAUTION! PERSON OF LESS THAN AGE OF 18 CANNOT BUY THIS CÔMIC.  
PRESENTED AND DESIGNED BY "MANIAX" AUGUST+ 2009.

大  
になつた  
王女さま  
MA+ING PRINCESS



成年  
コミック

# 犬 になつた 王女さま



MIA+ING PRINCESS.

ぼうけんのしょ

- ▶ さいしょからはじめる
- つづきからはじめる



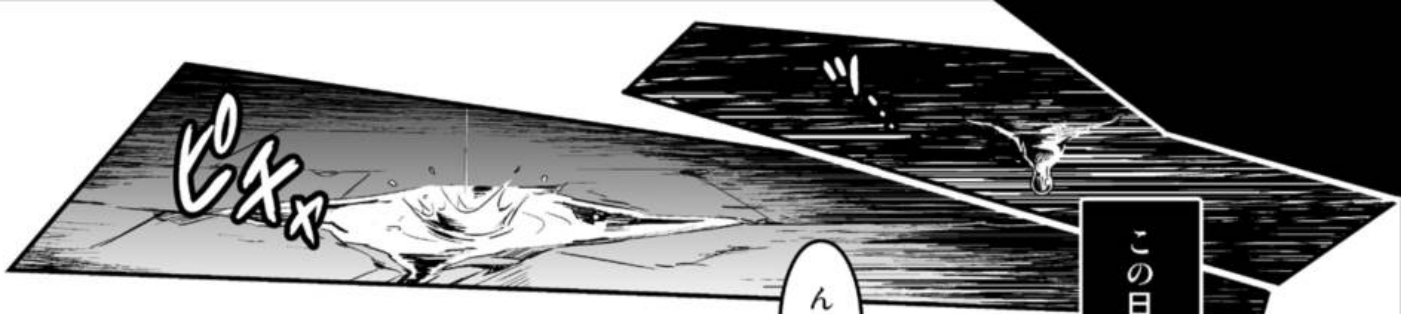
かつて  
ロトの血を引く若者が  
邪悪な竜を打ち倒し  
世界を救ってから  
百年の月日が流れ

ロトの子孫達は  
海を越え大陸各地で  
それぞれの王国を築いた

ここはムーンブルク  
美しい自然に囲まれ  
やさしい人々が暮らす  
平和な国——

いいえ……  
平和だった国





この日は——



ん……  
ウ……ン……？



裸？

えっ!?

ほ……何？  
何……？

あら？  
やっとお目覚め  
ですか……

カッ……



フフ…

初めまして…  
かしら？

お姉様♡

そ、そんな…

私…？

そう…

私はアナタ…  
ムーンブルクの  
王女様♡

ん



ラーの鏡は  
真実の姿を映し出す

そう…

城の宝物庫で  
ラーの鏡を前に  
アナタは願った

お忘れですか？

嘘じゃないわ

嘘っ！



呪わ…れた…鏡の力と  
あなたの願いでね ♡

そして  
私が生まれたの…

私は——  
王女になんて  
なりたく  
なかったのに



そ…  
そんなこと

ありませ

んんっ!?

バツ

グアイツ

100...

何って？  
只のおクスリよ  
お姉様が素直になる  
お・く・す・り ♡

フフツ...



な、何を...  
ゴホッ



やっ!?

やあああっ!!



な、何？  
体が...熱い？



ダメっ！  
何かっ...来るっ

ビーン  
ビーン



私は…ただ普通の女の子みたく笑ったり喜んだりしたかっただけなのに…

こんな事望んでなんかない…

こんなの…

ええ♡  
うかがってますわ



あらあらこんな所で  
おもらしなんて

はしたないお姉様です♡



浮いて…魔法—?!

!?

あっ?

教えてさしあげるの

女の子の喜びを—

だから…



王女様じゃ味わえない

弄られ

蹂躪され

貶められる

やっ! 見ないで!

快楽をね♡

クク

クク

ははあ

その代わり

ワンッ

無理矢理に奪うなんてもつたいない

お姉様には破瓜の痛みも快樂として味わって頂きたいもの

だから…はじめて処女はまた今度

やつやめ

ご心配無く♡

こっちのはじめて処女をいただきますわ♡

ふあっ!?

あああああっ!!

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ

あはっ♡  
お姉様のおしりグチョグチョですわ!

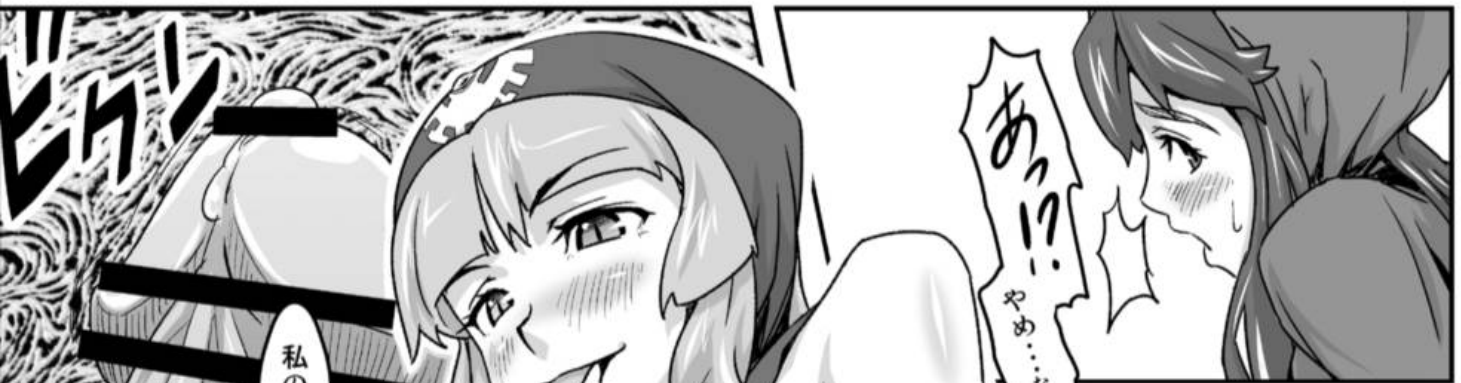
やめっ  
そんなっこと

んあっ!?

どんだん  
お汁が溢れてきて…  
キモチイイんですね♡

そっそんな事っ

ありま…  
せん







アハハッ  
ステキよお姉様♥

はじめてのお尻で  
こんなに乱れてっ

王女様とも  
あろうお方が  
お尻の穴犯されて  
喜ぶなんて

ああっ♥  
ごめんらしい  
おひりで  
かんじてるのお♥

皆が知ったら  
なんて思つかしらっ

んああっ♥  
おちんちん  
すごいっ  
きもちいいっ♥  
うんちあな  
じゃぼじゃぼ  
きもちいいのあっ♥



あはっ♡

イキそうなのですね？

あっ♡

お姉様の  
子宮がイキたいって  
ヒクヒクしてますわ♡

シキユ…ウ？

ズルウん

そう—  
子宮でイクととっても  
キモチイイの

場所は…

ム♡

ムムム

ムムム





この時  
薄れていく意識の中で  
感じました……



あらあら……  
これくらいで  
気を失うなんて  
しょうがないお姉様……

フフ……  
いいでしょう

もう——  
王女では  
なくなったのだと

次はもっと  
楽しみましょう？

メスの喜びを……ね♡

そして――

さあ……お姉様  
外で皆が  
待っていますわ

私は……

犬になりました

フフツ

早く元気なお姿を  
見せてあげてくださいいな

はい♡

王女様……

おうじょ

メスイぬ

*The End*



犬 skull iconになつた  
王女 crown iconがま crown icon  
ま



成年  
コミック

# 犬👁️になつた 女王さま ま



ぼうけんのしょ

さいしょからはじめる

▶ つづきからはじめる

▶ いぬになつたおうじさま I

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*



「んっ……  
はあっ……はあっ……」

『ごきげんようお姉様  
フフ…素敵な格好…  
まるで牝犬みたい♡』



「そんな…これはあなたが…」  
『あら？そんな事  
おっしゃるなんて悲しいですわ  
私はお姉様が素直になる  
お手伝いをしているだけ  
それに…ユッチはこんなに  
素直になったのに♡』

パッ

「んあっ♡」  
『ウフフ…これくらい素直になって頂ければ  
国民を人質に取ったりなんてしませんのに…  
まあ、国民はおろか国王お父様ですら  
お姉様と私が入れ替わったことに  
気付いていませんが♡』

「そんな…あはあ♡♡」  
『お忘れになったのかしら？  
私はお姉様から生まれた、もう二人のムーンプルクの王女…  
お姉様は王女でありながら、淫らな欲望を  
「やめてっ!!!」』

「ふふ、まあ良いですわ…  
もうすぐ素直な牝犬になるので、すから  
存分に楽しみましょう♡』

ゴロ

『さあ…お姉様♥』

『美味しい餌を差し上げますわ  
どうぞ、召し上がりください♥』

「うっ…これは…？」  
『ああ、先ほどお城の皆様のお相手をして差し上げましたのその時に頂いた精液ですわ♥  
「精液…？」』



「ええ♥皆様随分と王女様に淫らな想いを抱いておいででしたので私が替わりに慰めてさしあげましたの♥」

「そんな…嘘」  
「あら？嘘だなんて心外ですわ、皆様、大好きな王女様を犯せてお喜びでしたわ♥」

「それに、ホラ：：  
お姉様がお飲みになった精液にはお姉様<sup>お嬢様</sup>に射精していただいたのも混じってるんですのよ♥」

「あ、ああ…お父様あ…」



『フフ…可愛そうなお姉様…  
信じ守ろうとしていた国民に欲望の対象として見られ  
さらに、尊敬していた国王お父様にまで…』  
『うっ…うう…そんな…』  
『うああ…嫌あ…』

『お分かりになったでしょう？  
人間は皆、淫らで背徳的な欲望を持つているもの  
お姉様が自らの欲望を否定しなくてもよいのですわ  
だから、もっと素直になりましょう？』

『なんで…こんな…』  
『あら、言ったでしょう？  
私はもう一人のムーンブルクの王女  
だから、私の願いはお姉様の願い  
お姉様が自らの欲望に素直になれるように  
お手伝いして差し上げるのが私の役目！』

『さあ、素直になりなさい…  
使命も何もかも全部忘れて、  
欲望の…牝の本能の赴くままに…』  
『あ、ああ…』

『きもちよくなりましょ…』

「んっ…んんっ♡  
じゅるううっ」

「ふふ…お上手ですわお姉様♡  
いかがです？精液のお味は？」

グビッ

「それでは素直になれた  
お姉様に…んっ♡」

ズルッ

「んっ…はあっ♡んっ 美味しすぎです♡  
すごく生臭くて、飲み込むと喉に引っかかって  
喉を精子に犯されてるみたい♡」  
「フフ、随分と素直になられて♡  
欲望に身を任せるのは素晴らしいでしょう？」  
「ああっ♡はい素敵っ♡  
素直になるの気持ちいいっ♡」

グビッ

「♡褒美を差し上げますわ♡  
今度は私のをたっぷり味わってくださいいな♡」

「ああ…おちんちん♡…ごっくっ」

『あらあら、待てと言っても聞きそうにありませんわね  
しょうがない牝犬だこと♡』

「ごめんなさい…でも…もう…」

『ええ、ご褒美ですもの…どうぞ召し上がれ♡』

「はい♡♡」

*Whisper*

「んぶっ…じゅるっじゅるるるう  
んうっ♡んちゅっ…ぶはあっ♡

ずちゅうううううううう♡

ちゅうううううううううう♡

「くうっ♡す♡い♡が♡つ♡き♡よ♡う♡  
んっ、私もう限界のようですわ…♡」

「ふあらっ♡くらさくらっ♡  
のろのおくにせーしっ♡

びゅーってらしてくらさくらっ♡  
「くっ!!」

「ぶひゅううううううう!!」





「あらあら、喉の奥に射精されてお漏らし？  
はしたない牝犬ですこと♡♡♡」  
「ふはっ！はあっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」  
あはあ♡こめんなさい♡♡♡



「やつと素直になったと思えば…  
だらしない牝穴にはお仕置きが  
必要のようですね♡」  
「ああ…はっ♡♡♡」



「わ、私は：オチンポと  
精液が大好きな淫乱な王女  
いえ：牝犬ですう♡」

「お口に射精されただけでお漏らししてしまう  
しまりのない牝穴をオチンポで塞いでっ  
お仕置きしてください♡」

何々

『ふふ、よく出来ました♡』

プチプチプチッ

「あぐっ！」

『あら？そういえば初めてでしたわね♡  
あまりに淫乱なので忘れてましたわ♡』

ズチュッグプツッ

「あつ！ごめんなさいいっつ！  
ひぐつ！いんらんっ処女でっ！  
んへああつ！？」

何々

「んあつ! あつ? ああんっ♡」  
『ふふっ♡ 気持ちよさそうに泣き声出して  
どうしたのかしら?』

「ひぐう♡ おちんぽお♡  
お、オマンコ、の奥に当たると  
あっ♡ 頭がしびれて  
ああんっ♡ イタイのに  
キモチイイのおおっ♡」

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

『まったく、お仕置きですのに  
痛いのが気持ちイイなんて♡  
ふふ…でしたらもっと痛くして  
差し上げますわ♡』

「あつ? やあつ…」  
『心配なく…でもその前に』

「え…? ホイ…ミ?」

お

お

お

「ええ♥破瓜の傷を治してさしあげましたの♥  
もちろん処女膜も元通りに…そして  
また奪ってさしあげますわっ!!」

「ひぐううううっ!!」

「ずちゅっグププッ」

「あはははっ♥いかがですお姉様?  
処女を失い続ける痛みはっ!」

「ミチミチイッ」

「あぎっ!?!ふうっ…んっ♥  
あああああああっ♥」

「あはっ♥素敵ですわお姉様っ♥  
処女膜破られて感じるなんてっ!!」

「はひいっ♥さっきまれ処女らったのにい♥  
処女膜破られてキモチイにいれすうっ♥」  
「うふふっ♥これならどんなモノでも  
受け入れられそうね♥」

「プシヤアアアアアアアア」

『いいですわ♡  
そろそろ止めを刺してあげます♡  
イキ狂いながら孕みなさいっ!』  
「はひっ♡はらみませう♡  
しよじよまんこになかだじされて  
にんしんしますう♡」

「あはあああああっ♡」



「フフ！素敵な格好！本当に牝犬ね  
そんなお姉様にお願いがあ  
るの聞いてくださるかしら？」  
「おねがい？」  
「ええ、お姉様には繁殖用の牝犬に  
なっていたらいいの♡」

「はんしょく？」  
「そうですね、いろんな人が  
お姉様を孕ませてくださるの。  
たくさん交尾してたくさん妊娠する。  
素敵でしょう？」  
「ああ、うひゃ♡」

「だから、王女のお仕事は私に任せて  
お姉様は立派な牝犬になってほしいの  
お願いできるかしら！お姉様♡」

「はあ♡  
おうじよさまあ♡」

『はい…ムーンブルクは落ちましたわ…  
いえ、今はムーンペタに…はい…  
可愛がってもらっているようです…  
ええ…優秀な子を産んでもらいますわ…  
ロトの血を受け継いだ魔物を…ね…』





犬  
になつた  
女王さま  
ま



成年  
コミック

犬👤になつた  
王女👤さま  
ま



ぼうけんのしょ

さいしょからはじめる

▶ つづきからはじめる

いぬになつたおうじょさま I

▶ いぬになつたおうじょさま II

\*\*\*\*\*



ムーンブルクだって？

知らないのかい？  
あそこは魔物に滅ぼされちまって  
人っ子一人いやしないよ…

王女様も行方不明って話だし  
今頃どうなってる事やら…

…ああ、そういえば

お城が滅ぼされた頃からかね  
町外れの小屋に野良犬が  
住み着いたって噂だよ

まあ行ってみるのも  
いいけどね…  
十分気を付ける事さ

ひっひっひっ





カッ

!!

カッ

ギョ

ギョ

7

7

7

7

7

ギョ

お帰りなさいっ  
ご主人様っ♡♡

あ…♡

フム



それは…  
ご挨拶をさせて  
いただきますね

?

あ…ひょっとして初めて…  
ハイ！めんなさー！



あは♡

大きくなってる  
うれしいです♡



交尾用のメス犬は  
一年中発情期  
なんです♡

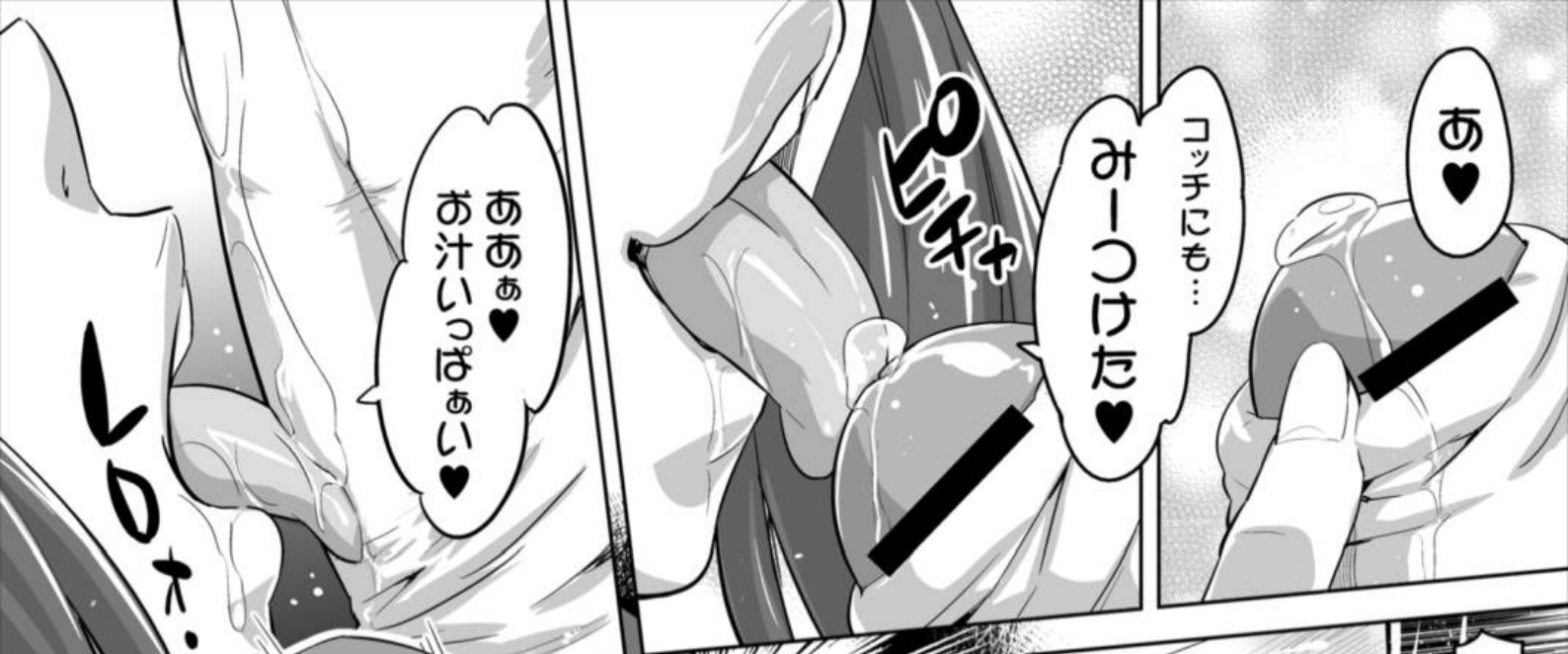
初めましてご主人様♡  
私は交尾用のメス犬です♡

だから、今日は  
いっぱい交尾して  
たくさん気持ち良くな  
らしてくださいね♡



フツッそれでは  
こちらにもご挨拶を…





あ♡

ロッチロキ...

みーつけた♡

ピキッ

あめあめ♡  
あ汁♡あめ♡



んぎゅ♡

ジュルッ♡

ジュルルルッ♡

わらひさま♡  
排卵しちゃいまわっ♡

ろつこれふがあ♡  
めじゅ犬の  
お口まんごあ♡

んぎゅ♡  
いっせいわんまわっ♡

♡うわんまわっ♡

!!

んぎゅ♡

んぎゅ♡

ピキッ

んぎゅ♡

ピキッ

ゲッ

ジュッ

ピキッ

ジュッ

ジュッ



さあ  
ご主人様…  
横になって♡

おくちマンコ  
の次は…

メス犬マンコで  
ご奉仕させて  
いただきます♡

はぁ♡

見えますか？  
私の処女膜♡  
破れる度に  
治療魔法かけてたら  
伸びきっちゃいました♡

もちろん  
オチンポだって…♡

指だって簡単に  
入る♡

それにホラ  
ご主人様の精子欲しくて  
子宮もここまて  
降りてきちゃってます♡

たっ♡





ドブ

あめい♡

おとなチンポに  
レベルアップ  
しましたあ♡

ズン

おは

ホタ

ホタ

あめい♡  
もご我慢  
できません…

あめい♡

ご主人様の童貞チンポ  
発情メス犬マンコに  
入れちゃいます♡

あめい♡

あめい♡

いっけい  
種付けして  
ご主人様の赤ちゃん  
孕ませてくださいね♡

んはああああ♡



ズン

ズン





んっ♡キャーっ♡  
あだるたわっ♡

お汁吹いて  
イッちゃっ♡のお♡

あっ♡

子宮口が開いて  
きまひたあ♡

そのきまっ♡  
突っ込んだっ♡

あっ♡  
来てくらっ♡

メス犬子宮に  
オチンポ入れてえ♡

おっほおっほおっほ♡

おほ♡

あっ♡



はあっはあっ♡

わかりませうかあ？  
ご主人様のチンポ  
入っくのま♡

子宮せいのこ  
気持ちいいん♡

みてくらせいひい♡  
メス犬子宮に  
チンポ出し入れえ♡

ああっクルっ♡

キまじゅうの♡  
スゴイの来りゅう♡

メス犬子宮の一番奥に  
精子叩き付けて  
はらませてえ♡  
ご主人様の赤ちゃん  
孕みたいのあっ♡

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ

はあっはあっ



★☆☆☆☆  
おーっこのりんく整の  
難し〜X〜X〜X〜X〜X〜X

トのっ  
ト〜ト〜ト

おげんりんく  
V〜V〜V〜V〜V

**ツイン**



あ…♡

せーっ♡  
うっせーっ♡

あ…♡



あ…♡

あ…♡

あ…♡



あらあら…

せっかく  
ツガイの人間を  
よこしたのに…

あっ♡王女さまあ  
いらっしやい



ホンモノの方が  
お好みだなんて  
あきれた  
メス犬ですわね♡

んっ♡  
DUNNO♡

あ♡

わー♡♡

RR  
RR  
RR  
RR

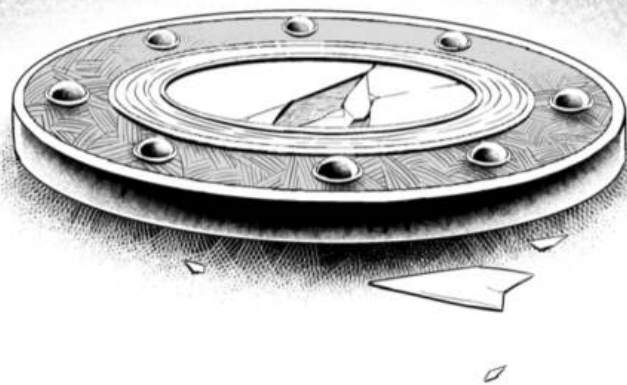
♡=

♡=

♡=

♡=

*The End...*



おくづけ

著 者 轟 真  
発 行 sin-maniax  
<http://sin-maniax.com>  
[sinmaniaux@gmail.com](mailto:sinmaniaux@gmail.com)  
誌 名 犬になった王女さま I・II・III  
発行日 2013年06月01日



\* 未成年の方の購入及び購読  
各種媒体への無断転載を禁止させて  
頂きます 予めご了承ください。





QUEST 2 CO+ERIE COMIC "MIA+ING PRINCESS".  
PERSON OF LESS THAN AGE OF 18 CANNOT BUY  
AND DESIGNED BY "SIN-MANIAX" AUGUST+ 20

